

# のぼり広告



## 特集

- ◆登別市第4次  
新総合計画
- ◆特集1 水道週間
- ◆特集2 環境月間
- ◆きらり  
津軽三味線  
吉田兄弟

6/1  
1995  
No.536



夢委員会21 市長に報告書提出

# 登別市第4次総合計画

遠い未来に思いをはせて 市民とともにつくりあげる  
 将来の私たちのまち 将来の私たちの暮らし  
 大詰めを向かえた 新しい総合計画の策定作業

総合計画は、そのまちの将来にわたっての発展方向と目指すべき方向性を定める「まちづくりの羅針盤」です。

現在の総合計画は、昭和63年度（1988年度）を初年度とし、平成7年度（1995年度）で終了します。そのため、市では、平成8年度（1996年度）を初年度とする第4次総合計画を策定するため、全庁的な策定体制を整え、作業を進めてきました。

また、新しい総合計画づくりにあたっては、「市民の皆さんと共につくりあげること」を基本理念としていることから、市民の皆さんが思い描く可能な限り遠い将来を見すえた夢を将来像として、新しい総合計画の基本構想に反映させるため、計画を策定する段階から市民の皆さんに積極的に参加してもらい、幅広い意見や提言をい

ただいできました。

市では、これまでいただいた意見、提言をもとに基本構想の素案の策定作業を進めてきましたが、ほぼまとまりましたので、再度素案について市民の皆さんから意見や提言をいただきたいと考えています。

このため、今月号（6月1日号）と来月号（7月1日号）の2回に渡って新しい総合計画策定に関する特集を組みます。

※6月1日号では、総合計画のしくみや、これまでの計画策定に関する取り組みを紹介するとともに、新しい総合計画・基本構想の構成について紹介します。

※7月1日号では、新しい総合計画・基本構想の概要を掲載し、市民の皆さんの意見、提言をいただきたいと考えています。

## 総合計画は

### まちづくりの羅針盤

総合計画は、これからの登別市のまちづくりを方向づけるための大切な計画です。

21世紀を間近にひかえ、社会は高齢化、少子化、情報化、国際化などと大きな変化が起きています。また、人々の生活意識は、モノの充足から心の充足へと着実に変化し、しかも、多様化がすすんでいます。

この変化に対応し、登別を素晴らしいまちにするため、みんなの英知を集めて、あるべきまちの姿を思い描き、その実現のために市民一人ひとりが、まちづくりにまい進するための羅針盤が総合計画です。

ここでは、総合計画の構成としぐみについて、家庭での献立にたとえながら、紹介します。



総合計画の構成	総合計画のしくみ	家庭での献立にととると
基本構想	市の将来目標やビジョンを明らかにし、これを達成するための基本的方向を示す総合計画の重要な部分で、議会の議決を必要とします	「栄養のバランスや味覚、また家計を十分考慮したメニューにしよう」といった献立づくりの方針にあたります
基本計画	基本構想において定めた市の将来の目標を実現するために、現況と課題を明らかにし、将来実現する具体的な計画を分野別に示します	「月曜日は肉料理、火曜日は魚料理、水曜日は野菜料理……」といった具体的な献立の計画を示します
実施計画	基本計画で示された各施策の実施年度、実施方法などを明らかにするもので、各年度の予算編成の指針となります	「月曜日の肉料理はトンカツにして、サラダとスープをつけて、予算は2,000円以内でいこう」といった具体的なメニューを示します

## 市民の意見や提言を反映するために

新しい総合計画の策定にあたっては、総合計画を将来のまちづくりにとって真の意味での羅針盤とするため、市民の思いが直接計画に反映されることが不可欠と考え、登別市の将来のあるべき姿や望ましい市民生活の姿を、市民と共に考え、議論を重ねる中からつくり

上げることを基本としてすすめてきました。  
ここでは、新しい総合計画の策定にあたって、どのような形で市民の皆さんに参加していただいたのかを紹介いたします。

### ●のほりべつ まちづくり夢委員会21



▲夢委員会21の討論風景

平成6年2月28日、21世紀のまちづくりの羅針盤となる新しい総合計画に、市民の夢をしつかりと反映させるための市民組織「のほりべつまちづくり夢委員会21」が誕生しました。

婦人団体、市民憲章推進協議会、ボランティア団体、文化団体、スポーツ団体などの各種団体や、登別らしさを導き出し個性あるまちづくりを目指すための展開方法を検討している市民グループC1幹事会、いきいき人とまち推進会議に積極的に取り組んでいる人など

総勢49名の市民が、約4か月間で毎月2回の会合を行いながら、五つの部分に分かれて、まちの将来の夢を話し合い、さらに全員で意見交換するなど熱心な議論を重ね、平成6年6月29日「輝き、ときめくのほりべつ夢21」をまちづくりのテーマとした報告書を市長に提出しました。

### ●市民意識調査

この調査は、新しい総合計画の策定や市政運営に市民の皆さんの考えや要望をより一層反映させるため、平成4年12月（第1回）と平成6年12月（第2回）に無作為に選んだ市民2千人を対象として実施しました。

第1回調査では「登別市に一生住みたい」と答えた人は約6割でしたが、年齢による差も大きく、20代では約2割にとどまり、60代では8割を超えという結果や、居住環境、生活環境の満足度にはバラツキがあるという結果が出ています。

第2回調査の結果については、第1回調査結果との比較を交えながら8月1日号の広報紙面で紹介します。

### ●その他

東京登別げんき会員アンケート、近隣市町村住民アンケート、各種団体アンケート、町内会アンケートなどを実施するとともに、夢委員会21と一緒にまちづくり市民シ

ンポジウムを開催しました。



基本構想素案は、次の三つの柱で構成されています。

- 1 新しいまちづくりの視点  
可能な限り遠い将来を見通した登別市のあるべき姿を基本とする構想のあり方や構想づくりへの視点を記述しています。  
また、まちづくりに関するキーワードをもとに、基本構想の策定において重視した事項について記述しています。
- 2 思い描くまちの輪郭  
将来像を描くにあたって必要となる将来のまちの輪郭について、次の3つの観点から記述しています。
- (1) 行政区域のあり方
- (2) まちづくりをすすめるにあたって対象となる人口の考え方
- (3) 土地利用の基本的な姿

### 3 将来像

#### ●「私たちの暮らし」

私たちが達成しようとする望ましい市民生活の姿や暮らしの風景を具体的な登場人物を通して物語風に描いています。

#### ●「私たちのまち」

市民の皆さんから寄せられた様々な意見をもとに、理想とするまちの姿をイメージしています。

## 総合計画・基本構想素案について

今後は、計画の素案について広報紙面などでお知らせするとともに、懇談会などを実施し、再度市民の皆さんのご意見をいただく予定となっております。

また、策定した原案については、条例に基づき、市の総合計画審議会に諮問し答申をいただいた後、議会に提案し議決をいただくこととなります。

新しい総合計画・基本構想素案の概要については、来月号（7月1日号）の広報紙面に掲載しますので、ぜひお読みいただき、再度市民の皆さんの意見、提言をお寄せ下さい。

ここでは、新しい総合計画・基本構想素案の構成について紹介し



# 6月5日 環境の日

「環境の日」とは1972年6月5日から2週間、ストックホルムで開催された国連人間環境会議において定められた「世界環境デー」のことで、人類とその子孫のため、将来に向かってより良い人間環境の創出と保全・改善を世界共通の努力目標としています。

これにちなみ、市民一人一人の意識高揚を図ろうと、市内でもさまざまな催しが行われます。

今号では、5月中に行われた催しの一部と6月に行われる催しの日程を簡単に紹介します。

緑いっぱいのにしようとひまわり公園（若山町）で植樹祭が行われました。



「春のクリーン作戦」、自分たちの住む地域を自分たちの手できれいにしようとしてゴミ拾いや草むしりなど清掃奉仕に汗を流しました。（写真は中央新生町内会の皆さん）



## 環境月間にちなんだ市内の主な行事

### 6月15日 市民記念植樹祭

八重桜、えぞ山桜、ナナカマド、プラタナス等を参加者に記念樹として植樹してもらう。

場所 川上自然公園

### 6月9日～11日 ラブグリーンフェスティバル

緑市・地場物産の展示販売。

場所 亀田記念公園

### 6月下旬 沿道美化事業

市内の道路沿いを花で飾る。

市内全域

### 6月18日 フリーマーケット

子供が大きくなり、そでが通らなくなったものや利用しなくなったレジャー用品など家庭内で不要となった品物をマーケットに出店し、再利用する。

場所 アーニス駐車場

### 6月(1か月間) 生活排水浄化モデル事業

登別市内の一部(富岸地区2,800世帯)を対象に台所の排水口に浄化資材(水切りネット)を配布をして、家庭から排水される生活排水による、水質汚濁及びこれに伴う水辺環境の悪化を防止する。



▲5月24日に飯山町で行われた植樹祭、約100人の参加者によって200本の苗木が植えられました。



▶しんた21ふれあい広場で、植樹祭が行われ、参加者は緑豊かな憩いの場となることを願いながら、本ずつ大切に植えていました。

## 捨てられたモラル

山菜採りやレジャーなどの本格的な行楽時期を迎え、市内の山でも多くの市民が自然を楽しんでいます。ところがいざ山に入ると、至る所で空き缶やビニール袋などのゴミが目につき、一部の心ない人のためにその楽しみがだいなしになっています。

また、ゴミの不法投棄の件数も今年はい立って増えています。

これについては市では、追跡調査を行っており、中でも悪質なものについては警察に通報しています。正規の手続きをすれば100kg当たり100円で処理できるものを、それを怠った人の中には罰金刑(最高50万円)に罰せられた人もいます。

豊かな自然はみんなの財産です。入山の際はマナーを守りましょう。





# 水道週間

6月1日～6月7日

私たちの生活に欠かすことのできない水道水。毎日不自由なく使い、あたりまえのように飲んでいますが、水道水は決して無限ではありません。

6月1日から7日までの一週間は「水道週間」です。この機会にあらためて水道水を見つめ直し、理解を深めてください。



## ライフラインとしての水道

蛇口をひねればいつでも飲める水道水。しかし、もし水が出てこなかったらどうでしょうか。水道は都市生活の機能を保つのに絶対必要な命綱（ライフライン）です。昨年から今年にかけて各地で相次いだ地震と渇水。特に1月17日に発生した阪神・淡路大地震は、重要なライフラインである水道についてもこれまで経験したことのない甚大な被害を与えました。

地震でパイプや浄水場などの施設が破壊されると、それまで不自由なく使うことができていた水の供給を断たれることとなります。普段から災害時に最低限必要な生活用水（一人につきおおよそ一日3ℓを3日分程度）の確保を心掛けましょう。

長い間雨が降らないことで、水道水のもととなるダムの水や川の

見直そう

## 水の尊さ

## 大切さ

水がなくなってしまうことを渇水と言います。この渇水も地震と同様に自然現象なので避けることはできませんが、日頃から節水を心掛け、水を大切に使うことが必要です。

市では、国や他の水道事業者と協力し合い、できるだけ水が止まることがないように対策を立て、努力していますが、そのためには市民のみなさんの理解と協力が必要です。

## 水源を大切に

水道水のもとになる良質な原水は、私たちの大切な財産です。昔は川の水や、湧き水をそのまま飲むこともありましたが、現在では衛生上の観点からほとんどの方が浄水場で処理した水を飲んでいますが、

良質な原水は、ろ過と滅菌処理で上水になりますから、低コストで済みます。

水質が悪ければ特殊な処理や、たくさん薬品を使わなければなりませんので非常にコストが上が

り、また、多くの薬品を使えば使うほど水の味がまずくなります。ですから将来も安全でおいしい水を飲むためには、水源を守ることが一番必要な事です。

一度汚染されてしまった水源をもとにもどすためには長い年月とお金がかかることになり貴重な財産が失われることとなります。大切な水源を守ることは、私たちの使命です。

## 若草第2配水池が完成



上鷲別町に建設していた若草第2配水池が完成し、5月24日通水式が行われました。

総事業費2億2千5百万円で平成6年11月から工事に着手し7年3月に完成しました。

同施設の完成により、給水困難だった上鷲別町と若草町5・6丁目の高台地区への給水と水圧改善が図られます。





## 鉾山町で市民探鳥会



5月14日、日本野鳥の会室蘭支部主催による市民探鳥会が鉾山町で開催されました。参加者は、双眼鏡をのぞきこみながら木々の間を飛び交う野鳥の姿や鳥の鳴き声を楽しんでいました。約2時間の野鳥ウォッチングの後、「オオルリという、胸をドキドキさせるようなすてきな鳥を見ることができた」「キセキレイの巣も見ることができた」など互いにこの日の成果を確認しあっていました。幌別西小学校6年生の千葉君は「ウグイスの鳴き声を聞くこともできたし、珍しい植物を見ることができたよ」と、新たな発見に満足そうでした。



## 登子連こいのぼりマラソン大会



## こいのぼりマラソン

第20回こいのぼりマラソン大会（登別市子ども会育成連絡協議会主催）が「子どもの日」の5月5日、晴天に恵まれた市営陸上競技場を発着点に行われました。3歳から81歳まで老若男女550人が参加し、「タイムを競うのではなく、楽しく健康づくりを」との大会主旨のとおり、心地よい汗を流していました。

## 私が見た登別

まちには花がたくさんあつていいですね



なかの けいこ  
**中野 恵子**さん  
(新川町)



—いつ登別に来ましたか？  
主人の転勤で、平成5年の3月に来ました。  
—それまではどこに？  
長崎県大村市に住んでました。  
—大村市はどんな所ですか？  
県の中央に位置し、大村湾に抱かれた風光明媚なまちで、県の空の玄関口、長崎空港があるところです。くだものや魚がおいしいところですが、忘れてならないものは、名物「長崎ちゃんぽん」ですネ。

—登別市を知っていましたか？  
北海道の中で温泉が有名な所と知っていました。  
—大村市と比べて？  
各家庭や家の周りをみて、いたるところに花が植えてあり、花を大切にしていると感じました。それと、こちらの人はあまり人に干渉しないのがいいですね。  
—登別で暮らしての感想は？  
一番違うと思ったのは、魚の種類が違うのは当然ですが、白身の魚が少ないと特に感じました。暮らしての不自由は感じません。周りの環境もよいですし、子供たちが自由に伸び伸びと遊べるのが一番ですネ。  
ただ残念なことは、立派な海岸をもちながら、夏は海水浴もできない。何か別な利用方法を考えてもよいのではと思っています。





### 婦人短期大学入学式

登別市婦人短期大学の平成7年度入学式・始業式が5月18日、市民会館で行われました。今年度の新入学生は24歳から71歳まで幅広い年齢層の51人で、胸には同窓会手作りの赤いコサージュを付け、在校生や聴講生らの拍手の中を入場しました。

新入生代表で最年少の有田洋子さん(24歳)は「ここで視野を広げて少しでも地域のためになるよう頑張ります」と誓いの言葉を述べました。



ダンボールが  
あそび

### 第6回 チビッ子の集い

5月23日、労働福祉センターで登別子ども劇場主催の「第6回チビッ子の集い」が開かれ、幼稚園入園前の子どもとそのお母さん約100人が集まりました。

子どもたちは、ダンボールの家に包装紙で飾りをつけて中に入ったり、ダンボールのトンネルをくぐり抜けたりと、お母さんやお友達と仲良く遊び、あちらこちらでかわいい歓声が上がっていました。

2回目の参加となった田中奈津美ちゃん(1才8か月)のお母さんは、「子どもがとても喜んでいるので、また参加したいです」と、感想を話していました。

### 仲間たち

### 登別ミニバレー協会

### ミニバレー



ここ数年、市民の健康への関心は高まる傾向にあり、スポーツを楽しむ人もかなり増えてきています。中でもミニバレー(昭和62年大樹町の教育委員会が行った婦人スポーツ教室の中から生まれた軽スポーツ)は手軽で、誰でも楽しめるので、年々盛んになってきています。

バドミントンのコートで4人1チーム。ルールはほとんどバレーボールと変わらないというこのスポーツは、ふわふわのビーチボールを使ってるので、最初のうちはその変化に富んだボールの動きにほとんどの人がほんろうされるそうです。それでも、練習していくとその変化を自在に操れるようになるそうです。

登別ミニバレー協会は昭和62年に発足しました。平成5年には全国大会「ジャパンカップ」の開催地にもなり、大成功を納めました。

会員数は、下は18歳から上は52歳まで180名をこえる大所帯になり、週2回の協会員への体育館の解放と、市が主催するものも含めると年6回の大会の運営を行っています。

「であい、ふれあい、わかちあい」をモットーに来年協会発足10周年を迎えます。

4人で1チームというスポーツですが、一人でも入会できるそうです。

問い合わせ先  
石塚さん ☎0534



# わたしの趣味

## 糸紡ぎと草木染め



大熊典子さん  
(柏木町)

大熊さんの趣味は羊毛を草木で染め、紡いだ糸から編み物や織物を作ること。

もともと、本が大好きな大熊さんは、昔話しや絵本の中に出てくる糸紡ぎや機織りにずっとあこがれていました。7年ほど前、市民講座の講師だった木工の宇都宮麻希さんと知り合い、草木染めと糸紡ぎの初歩を習ったことが、始めたきっかけです。

「忙しくてなかなか習いに行けないので、図書館で調べたり自分で工夫して作っているのですが、あまり上手ではないんです」と話す大熊さんですが、仕上がったひざかけやセーターなどの作品は、草木染めのやさしい色合いが羊毛のあたたかさをより感じさせるものでした。

毎年5月にハッピー牧場から羊毛を買い、その羊毛をきれいに洗い、7月の土用までに染め上げ、秋から冬に糸を紡ぎ、編んだり織ったりと一



▲あたたかさを感じさせる作品の数々

年がかりで作るそうです。約1kgの羊毛でセーターが1枚できるとか。草木染めを始めてからは、どんな草花でも染材になるので、外を歩くと自然と目がいついて、すぐに庭で育てたくなるのが困るそうです。

「祖母たちの技術が子どもたちに伝えられなくなるのは残念」と、郷土資料館で子どもたちに糸紡ぎを教えるボランティアもしています。

「手間のかかる作業なので、なかなか作品は完成しないのですが、原料から作ることができると魅力ですね。還暦を過ぎててもできる趣味なので、細く長く続けるつもりです。工夫することが好きなので、本当に私に向いていると思います」とにこやかに話してくれました。

いつか、育てているハーブで染めた糸で、ベットカバーやカーテンのような大きな作品をつくるのが夢だそうです。

## ゆけむりネットワーク 登別応援団

### 北前船の星と時代村



滝本明賢さん  
(石川県加賀市在住)

平成2年4月から平成4年10月まで登別伊達時代村 城代家老。平成4年11月から平成6年12月まで伊勢戦国時代村 城代家老。現在、加賀百万石時代村 城代家老。平成4年11月から登別市ふるさと大使。

4番目の時代村づくりを進めている石川県加賀市の橋立町に「北前船の里資料館」があります。北海道と石川県を結ぶ歴史の糸は、北前船の活躍の中で固く結ばれています。

江戸後期から明治20年代まで、20年も続いた北前船と北海道とのかかわりについて、同館の文献からご紹介したいと思います。

まず、元禄以後の内地農業の発達による肥料不足があります。大量にとれた蝦夷地の鯨やメ粕に対する需要は大きく、北前船の存在価値を高めたのでした。次に、アイヌの人々が衣類として用いた厚司やアイヌの風俗を描いた蝦夷屏風は、松前土産として内地に運ばれ、愛蔵されています。

また、北海道の民謡として全国的に有名な江差追分は、信州の馬子唄が蝦夷地に運ばれて生

まれ、それが南下して秋田船方節にかわり、さらに北陸に戻って加賀の山中節に追分調として残ったのも、北前船の中継ぎによるものと言われています。

北海の荒海に生命の危険をかえりみず、未知の世界に挑み、航海のロマンに満ちた商船北前船の資料館の近くに、平成8年4月に開村する「加賀百万石時代村」が登別伊達時代村と同様に登別の皆の皆さんとご縁が深まることを願っております。



▲伊勢戦国時代村での滝本さん



登別郷土文化研究会 宮武 紳一

## 知里真志保を訪ねて(5)

## 言語学者への道

▲近文の一夜、1918年（大正7年）夏  
金成マツ、金田一京助、モナシノウクの出会い

昭和4年（1929年）室蘭中学校を卒業して、幌別村役場に勤めた知里真志保は、僅か数か月で役場をやめた。理由は、心の根底に戸籍上差別されている民族的怒りもあるが、知里家・金成家と深い関わりをもつ金田一京助博士に熱心に進学を勧められたことである。

金田一との関わりについて説明すると、幌別の金成家には、金成ノウクの住む旭川の近文の家に預けられ、アイヌだけの上川第五小学校に転学を強制、庁立女学校も不合格という差別を受けながら旭川区立職業学校に進学していた。旭川近文での幸恵の生活は、祖母のモナシノウクは、金田一が「アイヌの最後の叙事詩人」と賞賛した語り手、マツも母から継承したユーカーラの名人である。

20年前の聞き取り調査で、当時83才の登別の鈴木島一郎さんがこの辺りを次のように語ってくれた。「父親の高吉さんがよく宅へ来て高央や真志保のことを話していたが、突然だけど、今度真志保を東京へやることにしたよ。中学でたんだから、もうちょっと家の足しに働いてくれたら助かるんだけども……とにかく本人は勉強したいと云うし……えらい人からも、将来を考えて勉強させなさい学資は何とかなるから」とまで云われると……うちでは東京へ出せないけど……やらない訳にいかないし……」

恵里雄（ハエリリ）と茂奈之（モナシノウク）の夫婦がいて、その子供が知里真志保の叔母マツと母ナミの姉妹である。

アイヌ語とアイヌ神謡・詞曲を語る豊かなアイヌ文化の恵まれた家庭環境で幸恵は育っていた。幸恵15才の夏、金田一がジョン・パチエラーの紹介で旭川の近文を訪ねるが、この時に幸恵を知り大正10年5月幸恵は上京、金田一宅で将来を嘱望されながら、歴史的偉業と評された「アイヌ神謡集」を残して心臓病で急死した。

病弱であった幸恵は、かねがねこのような運命を自分が背負っていることを心の中で察知し、弟に後日を託していたのかも知れない。真志保を旭川に呼び、アイヌの伝承をもつモナシノウク、マツの家で過ごさせ、上京後は金田一に「私は先生のお手伝いはあまり出来ませんが弟ならきつとやり遂げてくれると思います」とつねづね語っていたことからもうなずける。

マツとナミは、幌別で愛隣学校を創立し、アイヌの父と仰がれたジョン・パチエラーの勧めで、函館のイギリス聖公会養成伝導学校に通ったクリスチャンである。ナミは登別の知里高吉と結婚し、幸恵・高央・真志保の優秀な3人の子に恵まれる。姉のマツは幼少時の事故で片足が不自由、生涯独身で過ごすが、日高の平取に続いて旭川の近文に伝導師として派遣され布教活動をしていた。

金田一は、幸恵が亡くなってから満7年をむかえ、室蘭中学校を優秀な成績で終えた真志保を知っていたに違いない。積極的に真志保に進学を勧め上京を促した。真志保も、とびぬけて優秀であった英語力から「将来は言語者になりたい」という室中時代の希望を激しく上級学校進学へと心を駆りたてたに違いない。

真志保は、金田一の勧めで進学を決定し役場をやめ勉強にとりかかる。受験期まで数か月、受験校も決めていない。上京した真志保に金田一は「どこを受けるか」と聞いても「決めていない」と云う。それで金田一は最高の名門校第一高等学校の過去の問題をやらせたら、すらすらと解答したので第一高等学校（東大に合併）に決めたという。受験の結果は合格者150人中12位の成績であった。



# きらり

## 津軽三味線全国大会

### A級に初挑戦、兄弟で受賞

吉田良一郎さん (17歳)

健一さん (15歳)



青森県弘前市で開かれた'95津軽三味線全国大会に津軽三味線のプロ演奏家を目指す市内富岸町の高校生兄弟が最高クラスのA級に初挑戦し、兄の良一郎さんは入賞、弟の健一さんは特別賞に輝きました。

—三味線を始めたきっかけを教えてください  
 兄・弟：「父に勧められたのがきっかけで二人とも5歳から始めました。父は若いころ津軽三味線の曲弾きを聞いて感動し、自らも三味線を習ったこともあるそうです」  
 —やってみてよかったですか  
 兄・弟：「三味線をおして全国各地の人と友達になれたことが一番うれしいです」  
 —一日どのくらい練習していますか  
 兄・弟：「3時間くらいです。先生はいいので、分からない曲は譜で覚えたり、テープを聞いたりして練習しています」  
 —受賞の感想を聞かせて下さい  
 兄：「津軽じょんがら節をアレンジして演奏しました。今回はあまり緊張しないで、落ち着いて弾けたと思います。成績発表で

名前を呼ばれたとき、「やった」と思いました」

弟：「A級は初めての挑戦だったので緊張しました。参加者は、ほとんどがプロ級なので3、4回挑戦しないと賞は取れないと思っていましたので、本当に嬉しいですね」

二人の成長を見守る父親の誠一さんは「よく今まで続けてきたなと感じています。頑張つてやっていたら、いいことがあるはずね」と嬉しそうに話してくれました。

最後に二人から「来年の大会は最高の曲を作つてのぞみたいです。上位を狙います」と力強い言葉が聞けました。

お互いに腕を磨き合つて日本一を目指してほしいと思います。頑張つて下さい。



◀日本一を目指し練習する吉田兄弟

# フレッシュな未来



よしもりしほ 義盛志穂さん  
 常盤町・23歳 白菊幼稚園勤務

幼稚園の先生になって3年目を迎えた志穂さん。ただいま、たんぼほ組32人の担任として、明るくがんばっています。

—幼稚園の先生になったきっかけは？  
 子ども好きだったことが一番ですが、私が幼稚園児だった時の担任の先生が白菊幼稚園ですと働いていたことも、きっかけのひとつです。

—幼稚園の先生になって良かったことは？  
 今、4才児の担任をしています。子どもたちのちょっとしたしぐさや言葉がとても純粋でかわいらしく、毎日ちがった発見がありますね。「しほせんせい、しほせんせい」と寄ってきてくれるのがうれしいです。一緒になって歌ったり遊んだり、とても楽しいですね。

—逆に大変なことは？  
 子どもたちも集団生活に慣れてきたころですが、まだまだやんちゃなので、ケガをしないかと心配です。ケガをさせてしまったときなどは、目が行き届かなかったことに反省して落ち込みます。

—仕事以外で好きなことは？  
 昔習っていたピアノを、最近また習い始めたので、家ではよく弾いています。疲れたときなどに、同僚の先生たちと温泉めぐりをするのも好きですね。

—登別市についてどう思いますか？  
 観光スポットがたくさんあるのがいいですね。

—登別市に欲しいものは？  
 いろいろな職業の社会人でつくるサークルがあれば、参加したいですね。



# まのらからと

## あなたのお店を出しませんか フリーマーケット出店者募集



▲ 昨年のフリーマーケットの様子

登別消費者協会は、リサイクル運動の輪を広げるため家庭で不要となった品物を販売するフリーマーケットを開きます。出店を希望する方は、6月15日（木）までに申し込みください。

▽日時 6月18日（日）10時から13時まで

▽場所 アーニス駐車場

▽出店対象者 市民

▽募集店数 50店（1店当たりの面積は6平方メートル）

▽参加費 500円

▽申し込み・問い合わせ 登別消費者協会（☎83307）

## からだ元気に 参加しませんか

市では、基本健康診査（成人病検診）で高脂血症（コレステロールが高い）と診断された方を対象に、生活習慣の改善方法を知り、それを行動に移すことを目的とした「からだ元気会」を開催します。

▽日時及び内容

6月20日（火）13時から15時 講話 高脂血症とは  
実技 体を動かそう

6月23日（金）13時から15時 講話 食事について  
実技 体を動かそう

▽対象 基本健康診査で高脂血症と診断された方で2日間受講可能な方

▽会場 しんた21（総合福祉センター）

▽定員 30名

▽料金 無料

▽申し込み 6月16日（金）まで

▽申し込み・問い合わせ 保健福祉課（しんた21内）  
☎85501000

## 市議会からのお知らせ

平成7年第2回市議会臨時会が5月16・17日の両日開催され、議長と副議長の選挙を始め、監査委員、議会運営委員長、常任委員長が次のとおり選任されましたのでお知らせします。



議長 小坂 義昭



副議長 篠原 孝明



監査委員 熊野 正宏

議会運営委員長 山本 茂治  
— 常任委員会 —  
総務委員長 岸 正治  
民生文教委員長 藤 光秀  
建設委員長 西村 孝夫  
観光経済委員長 松山 哲  
(敬称略)

## 初夏の交通安全運動

6月12日（月）～6月21日（水）  
6月12日から6月21日までの10日間「初夏の交通安全運動」が実施されます。  
市民の皆さんのご協力をお願いします。

- 運動の重点目標
- スピードの出し過ぎなど無謀運転の防止
- シートベルトの着用の徹底
- 暴走族の追放（暴走行為の禁止）
- 二輪車の交通事故防止

今後とも、「広報のほりべつ」をよろしく願います。

▽登別市中央町6丁目11番地  
総務課 広聴広報係  
☎1130（内線211・212）  
FAX 1108

## ご意見・ご感想を お寄せください

4月から広聴広報係のスタッフの顔触れも変わり、今月号から紙面も一部リフレッシュしました。慣れない作業で四苦八苦しながら、それでもなんとか発行にこぎつけ、ほっとしています。

スタッフ一同はみなさんからのご意見・ご感想をもとに、さらに内容の充実に努めて行きたいと考えていますので、ぜひお寄せください。

市内のちょっとした話題などの情報も大歓迎です。

## となりまち ホットライン



### 室蘭市

#### 向井千秋さんがやってくる！ 特別講演会開催（無料）

日本人初の女性宇宙飛行士、向井千秋さんが、宇宙での体験や実験の様子をお話してくれます。内容は小学校5年生以上を対象としたもので、どなたでも参加できます。（乳幼児は遠慮ください）

▽日時 8月10日（木）14時～15時30分

▽場所 講義棟（2階）

▽定員 1,200人（超えた場合は抽選）

▽申込方法 6月20日まで往復はがきに、  
①向井千秋講演会参加 ②住所 ③氏名  
④年齢または小中高生は学年 ⑤性別  
⑥電話番号を記入

▽申し込み・問い合わせ 室蘭市企画課  
課（〒051 室蘭市幸町1-1）☎1111  
内線2173・2175

## 伊達市



### 希望舞台 「青い空が見えるまで」

全国巡演を続けている劇団希望舞台の北船通公演が船通管内では唯一、伊達市で行われます。北船通管内を舞台に主人公は女子高校生。父を捨ててくし、求道に卒業をひかえ、道志（八木）の選択に迫られ、自立していく中で、道志と旅立ちを描いていくのが11巻です。ぜひ、この機会に手づくり劇場を鑑賞してみませんか。

▽日時 6月17日（土）17時30分開演  
18時開演

▽場所 カルチャーセンター

▽料金 一般3,000円、高校生以下2,000円（全席自由）

▽詳細 カルチャーセンター内  
☎0142-1515



## うらびょうし



## 木馬にまたがり流鏝馬体験

昨年、郷土資料館で行われて好評だった体験学習「流鏝馬」が、今年も5月13日に行われ、参加した約40人の子どもたちは手作りの木馬にまたがりながら矢を放ち、鎌倉武士気分を楽しんでいました。

鎌倉時代の当時の食べ物「すいとん」の試食も行われ、昔の味がしておいしいよ」と、子どもたちに大好評。おかわりが殺到して、大きなナベがあつと言う間に空っぽになるほどでした。

### 人のうごき

- 人口 57,215(+288)
  - 世帯 22,507(+335)
- ( )は前月比  
平成7年4月末日現在

鳥名 ハヤブサ(留鳥)  
観察時期 1年中いる



(文・写真提供 日本野鳥の会会員ヨシキリの会)  
●問い合わせ 伴野さん ☎85-7515

この広報紙は再生紙を使用しています。

ボクはハヤブサ、大空の狩人。時速400キロの猛スピードでえ物を目撃しての急降下襲撃はボクの得意技。ボクの自慢は数キロ先のえ物を見きわめる大きな目と、太い脚の鋭いツメ。カギ形に曲がったクチバシは、ワシ・タカ仲間共通点なんだ。狙ってえ物は「ムトリ」や「ハト」、水鳥などだけじゃ、60日に一度くらいしか狩りはしないんだよ。

ハヤブサっていえば室蘭の地球岬が有名だけど、ボクは鉢山町の隣の沢に、もう何年も夫婦で暮らしているんだよ。今年も嫁さんが断崖の岩場で卵を温めているので、ボクは近くで毎日見張番をしているんだ。去年は2羽のヒナが無事生まれてるんだよ。6月の末には親子で飛び練習や、狩りの仕方をあつちり教えてんだ。

秋には親のナワバリから追い出されて、自立させられて、その後どうしているのかなあ。遠る世間にはイシワルカラスや、ハヤブサより強いワシやタカもいるしね。何よりも心配なのはボクらが生きてゆける広く豊かな自然環境が減っていることなんだ。今、ハヤブサは日本や各国で激減して、生き残りにきびしい状況にあるしね。でもボクは授かった新しい命を、一生けん命守って、大空へ飛び立たせるんだ。

